

## 平成 28 年度第 2 回高知県教育委員会協議会 議事概要

【日 時】平成 28 年 11 月 21 日（月）18：30～19：28

【場 所】高知県庁正庁ホール

### 1 前回の議事概要の確認

教育委員会事務局から説明

### 2 校名についての協議

#### (1) 高吾地域拠点校について

(委員) 校名が「須崎総合高校」となることで、就職時等に生徒に不利益が出ないように事務局は配慮をしてほしい。また、総合学科の学校と誤解されないように周知を図ってほしい。

(事務局) 工業科の内容を確実に引き継ぐ、新しい学校の教育内容を企業、大学等にピアーールしていきたい。

(教育長) 委員は、校名と理由は了承しているの、次回に正式に決定する。

#### (2) 新中高一貫教育校について

- ・ 4 つの校名候補の中から選ぶことは、前回確認。
- ・ 協議のポイントになる事項は、次の 3 点の他にはないことを確認。

### 【1】 どういう事項を重視して校名を考えるべきか

(委員) 大学も含めて、校名はどのようにつけられているのかを考えた時に、

- (1) 地域、地名、人名、明治大正などの時代。この例が西、西南。
- (2) 学校の特色であれば工業、農業などの学校の名前。この例が国際、総合。
- (3) 建学の精神、私学にある理念を表す校名。この例が、高知立志館。
- (4) これらのミックスした校名もある。

新設校の場合は、歴史も伝統もないが、今回の統合校は両校関係者が主張しているように、新設校とは違う難しさがある。伝統も大事だが、将来の若者が夢を持って通う学校として、どういう名前がふさわしいか考えることを大事にしたい。

(委員) 応募の校名には、高知らしさを感じるものや気持ちが伝わる意見が数多くあった。何を目指した学校なのかを第一に考えたい。

(委員) 自分なりに整理の途中ではあるが、次の 3 点を考えた。

- (1) 学校関係者の校名に対する愛着が非常に強い。そのため、南中高、西高の両校に配慮していくことが必要。出身校がなくなることはさびしいと同時に両校の良いところを発展、飛躍していくことが必要。
- (2) 新しい学校の校名が、もし西高でない場合に、現実的なデメリットについて応募の理由の中から考えた時に、
  - ・ 「余計な出費が必要」というのは予算の都合で校名を決めるのは違うと思う。
  - ・ 「校風と校名の関係」は、直接の関係はなく、それは別途対応すべきこと。
  - ・ 「現場の混乱」は、課題を想定して事前に対応していくべきこと。
  - ・ 残る懸念である「高知西の校名がなくなれば生徒にとって進学等で不利益」が事実なら大変なことであり、対応が必要。
- (3) 柱は、グローバル教育。英語力は目的ではない。グローバル教育とは、世界の現実に対して、全ての人々の目と心を開かせて、全ての人に平等に気づきを促す教育。その実践的なものが国際バカロレアであり、10 の学習者像を普通科も含めた学校全体で重視する学校。英語を重視して発展させるのではなく、これまでにない学習をする。そのために英語を使うもの。この考え方は何も特別なことではなく、文科省

もアクティブラーニングとして、次の学習指導要領に定める内容を、高知県が先陣を切ってやっていくもの。

以上をまとめると、

- (1) 学校への愛着、さみしさへどう両校に配慮するか。
- (2) 仮に校名が変わるとすれば、どんな配慮ができるのか。
- (3) グローバル教育については、これまでにない学校を見せることが必要なのか。

以上を整理して、校名をどうするかは考えていきたい。

**(事務局)**「校名が変わったら進学が不利となる」ことについては、具体的なデータはない。しかし、校名が変わっても教育内容は受け継がれていくことを周知するよう、できる限りの対応をとっていく。

**(委員)** ①新しい中高一貫教育校の教育内容、特色。②報告書の内容。③公募の結果、学校代表者の意見を総合的に考えて、入学生、在校生の自信や誇りにつながる校名を判断したい。

**(委員)** 前回の学校代表者の方の発言を参考にさせていただく。これからの教育に向けた新校は、グローバル教育が柱となることを目指している。他者への尊重、「英語を学ぶ」ではなく「多様性を認め、尊重する」。それがどの校名なのか結論は出ていないが。

**(教育長)**

- ・この場でどう考えるべきか統一することは考えていない。
- ・他の委員の意見を踏まえて、次回、最終の決定の際の材料にしてもらえれば。

## 【2】校名に関する検討委員会の優先順位をどう受け止めるか

**(委員)** 校名に絞った委員会を計8回、うち公募結果を受けて3回開催。十分に尊重したい。次の公募の数も同じことが言えるが、具体的な数をどう考えるか。分母の母数をどうとるかによって、評価は随分変わってくる。

西は「高知西が公募の90%」、南は「校名候補の数でいえば、6割が新しい校名を応募」と主張したが、具体的な数字については考えないでおきたい。

**(教育長)** 検討委員会委員の一人から、「優先順位を付けたら、きちんと受け止めてほしい」という要望があり、私からは、「優先順位が付けば、当然順位は、優先する。しかし、必ずしも優先順位の高いものから決めるというわけではない」と説明している。

**(委員)** 8回の検討委員会を開催、うち公募結果後に3回。議事録からは、議論が大変積み上げられた結果であり、優先順位は重く受け止めたい。

**(委員)** 教育委員会で丁寧に議論した結果だと考えている。候補、優先順位は尊重すべき。

**(委員)** 8回にわたり議論し、付けられた優先順位を参考にしたい。

**(委員)** 尊重すべきだと思うが、いろいろな意見をこの協議会の場でも予断を排して考えていきたい。

## 【3】公募の数をどう受け止めるか

**(委員)** 大変、難しい問題。運動をされたことに敬意を表す。南中高校も統合反対の署名を集めていた。「応募多数の名称が選ばれるとは限らない」という原則はしっかり考える。両校関係者がパワーを発揮して活動された。是非とも、統合校にそれを生かしてほしい。

**(委員)** 西高の数を集めた大変さは分かる。145候補の内容を重視して判断したい。

**(委員)** 募集要項で「応募多数の名称が選ばれるとは限らない」としていても、組織力を発揮して集めた。そのことが結果的に重みを感じている。一票しかないのが93候補。一票しかないものでも、良く考えられている。複数応募がある候補が素晴らしいわけではない。

**(委員)** 尊重して認めるが、応募多数で決めるものではない。

**(委員)** 数の評価はいろいろあるので、数そのものの評価はしない。西の応募理由は重視して考えたい。